

現地学習ツアー

いまフクシマはどうなっているのか ——15年経った今を学ぶ——

東日本大震災、東京電力福島第一原発の事故から丸15年が経過しました。原発の廃炉作業は遅々として進まず、今もなお少なくとも4万2000人の方が故郷に帰れないまま（帰還をあきらめた方も含む）となっています。一方で、政府は温室効果ガスの排出削減や原油価格高騰などを口実に原発再稼働や廃炉原発の建て替えに舵を切っています。当研究所では、原発事故で何が起きたのか、沿岸部ですすむ「復興」や「研究開発」などについて現地で、被災した住民の声に耳を傾けるツアーを企画しました。災害の風化を止めるには、現地で学ぶことが大切です。参加をお待ちしています。

日時 2026年10月17・18日（土日1泊2日）

宿泊 大滝旅館（広野町）夕食・朝食つき

参加費 20,000円（予定）貸切バス代、宿泊費、案内費、保険料
* 集合場所までの交通費などは自己負担です

● 17日（土）
常磐線泉駅 10時集合
貸切バスで移動

● 18日（日）
常磐線泉駅 16時解散
* 集合場所まで車で来られる方のために、泉駅近くに駐車場を確保します

見学地

- 南相馬市小高区
—原発処理水（汚染水）問題を科学的に学ぶ—
- 「福島イノベーション・コースト構想」の現場（双葉町など）
- 震災遺構 浪江町立請戸小学校
- 除染して創られた街 常磐線大野駅前、大熊町立学び舎ゆめの森
- 震災当時のまま残る福島県立双葉高校（休校中）校舎
- ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館（楢葉町）
- いわき市江名港（一部は車窓からの見学となります）

案内者

柴崎直明さん（福島大学特任教授）

- 福島第一原発汚染水問題の研究者

丹治杉江さん（伝言館事務局長）

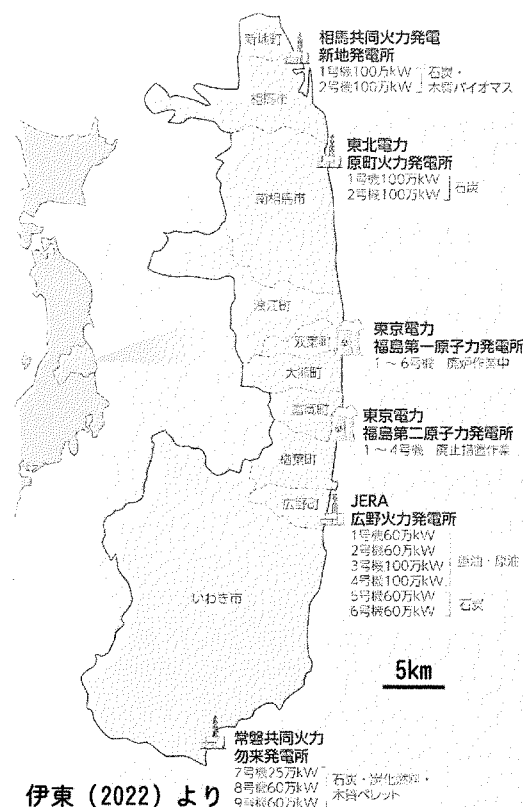
- 福島イノベーション・コースト構想を多角的に取材

水野那美さん（福島県内小学校教諭）

- 広野町で被災し3年間の避難生活の体験を語る活動を始めている

倉川博（さいたま教育文化研究所、ツアー事務局）

- 震災から続いている福島との交流を支える所沢西高校の卒業生も同行して、思いを語ります。



主催 さいたま教育文化研究所

メール: kenkyujo-1@kyouiku-net.org 電話: 048-831-4266

申し込みはこちらから▶

（定員45名になりましたら締め切ります）

